# 旧上妻家住宅主屋，門について

## 1　文化財の概要

(1)　**文化財名**　旧上妻家住宅主屋，旧上妻家住宅門
(2)　**所 在 地**　主屋：西之表市西之表9819
　　門　：西之表市西之表字下小牧9819-2
(3)　**建築年代**　主屋：江戸末期（昭和中期改修）
　　門　：江戸末期
(4)　**登録基準**　国土の歴史的景観に寄与しているもの

## 2　特 徴 等

種子島の北寄り，西之表麓の南西に位置する武家住宅である。見通しのよい小高い丘の上に建つ。

主屋は南北二列に室を並べ，南列を接客用座敷，北列を居室とする。北列東室はもと土間とみられる。内部造作もトコ構えを板壁とするなど，地域の特徴をよく示す。

門は敷地の南辺に開く腕木門である。主柱の前後に控柱を出す。軒は，一軒疎垂木で，桟瓦を葺く。冠木中央に左右笈型付の束を立てる。全体に簡素ながらも，腕木の実肘木などに繰型を施すなど，細部に装飾を持つ。敷地のソテツなどと相まって，南国の武家屋敷の構えを示す。

※　一軒疎垂木・・・　軒の垂木の間隔が広く，まばらに並んでいる様子。「ひとのきまばらたるき」ともいう。

※　県内の国登録有形文化財の総数は本件を含め122件
　　（内訳）登録有形文化財（建造物）　120件
　　登録記念物　2件

## 3　写真

主屋外観

門正面外観